

鬼の念仏

大津絵の中で一番よく知られているもの。
僧衣姿をした鬼が念仏を唱えながら町を
歩く姿を描いて偽善を風刺している。
なぜか赤ん坊の夜泣き止めや魔除けのお
守りとして重宝がられた。

篠原ユキオ

1948年 東大阪市生まれ
京都教育大美術科卒
京都精華大学名誉教授
(公社)日本漫画家協会参与
FECO JAPAN 会長



大津絵 **CARTOON**

大津絵は江戸時代に天津周辺で売られていた手描きの民画で、その表現は現代にも引継がれ
多様なグッズ商品展開もなされています。

元々は各地から京都や大阪を訪れた旅人たちが旅の土産としてに買い求め各地に広がりました。
定番のテーマや登場人物があり、教訓的なものや風刺的要素の盛り込まれたものもあり、そこ
から飾り的な要素より縁起物として護符（お守り）的な要素が強くなりました。

ここではその中で有名な10種類をモチーフとして私流のひねりを入れた1コマ漫画にしてみました。

釣鐘弁慶 (つりがねべんけい)

比叡山の釣鐘を奪い、かついで逃げたとされる弁慶の姿はその怪力ぶりから身体剛健のお守りとされている。

三井寺の釣鐘には弁慶が引きずって来たときに付いたとされる傷が残っているという。



鷹匠

鷹を使って獲物を捕まえる鷹匠の姿を描いた物。

利益を逃さず手に入れる。失くしたものが見つかる。というご利益があるとされた。



槍持奴 (やりもちやつこ)

大名行列の先頭を歩く奴が大名の威光をバックに威張っている姿を嘲笑するように描かれたものだが道中の安全を祈るお守りとして旅人たちに好まれた。

矢の根五郎

父の仇を打つために矢の根（矢じり）を研いでいる曾我五郎時政の姿。

歌舞伎荒事の大表作だが正月の夢に出て来た兄のお告げを聞いて兄の元に駆けつけるという話。勝負運、仕事成就、厄除などを願うお守りとされた。



藤 娘

藤の花の精が娘の姿で現れ踊る姿は良縁成就や恋愛成就のお守りとされ広まり、それが歌舞伎の演目となっても広まった。



瓢箪鯨 (ひょうたんなまず)

瓢箪を使って鯨を捕まえようとしてもどうにもならない事を描いてつかみどころのないことを表現している。

鯨を描いている事から水難除け、地震除け厄除けのお札とされた。



座 頭

現代では目の不自由な人に対する差別的なイメージから描かれることも少ないが、江戸時代には按摩や音曲で生活する者とそれらを統括し富や権力を持った『検校』という存在があった。

見た目で人を判断してはいけないという戒めもある。



雷光の太鼓釣り

雷神がうっかり太鼓を落としてしまい、それを釣り上げようと苦労する姿を描いている。

権力への風刺を描いているが、雷除けの縁起物とされた。



外法大黒

寿老人と大黒天の絡みで『寿命』と『財』を風刺している。

高慢の長い頭に大黒が梯子をかけて登り頭を剃るという姿だが芸事の上達や商売繁盛の縁起物とされた。

